

小児科・小児外科の入院患者のご家族へ

水痘（水ぼうそう）発症予防についてのお願い

小児科病棟医長
小児外科病棟医長
医療環境安全部 感染制御部門

水痘（水ぼうそう）は、発疹と発熱をきたす小児によくみられるウイルス感染症です。このウイルスは水痘・帯状疱疹ウイルスと呼ばれ、空気中をただよう小さな微粒子を吸い込むことで感染が起こります（空気感染）。このウイルスに対する免疫（抵抗力）が落ちている場合には、成人でも水痘を発症することがあります。

小児科・小児外科では、免疫力が落ちた患者が多いため、入院中に予期せず水痘を発症することがあります。免疫力が低下した患者が水痘になると重症化しやすく、場合によっては致死的な経過をとることもあります。発症した患者は空調設備のある専用の個室に移動をお願いしていますが、感染力は発症1～2日前からあるため、病棟内ですでにウイルスが広がっています。そのため、他の患者や免疫のない付添家族が発症するのを予防するため、患者やみなさまに抗体検査や抗ウイルス薬の内服をお願いすることがあります。

患者のご家族、特に付き添いをされるご家族は、これまでに水痘にかかったことがあるかどうかをご確認ください。はっきりしない場合は、ぜひお近くの医療機関で水痘の抗体検査を受け、陽性でない場合はぜひ水痘の予防接種を早めにお受けください。ご自身の発症の予防のため、また入院中の子どもたちを守るためにも、ご協力をお願いいたします。

また、入院後に外出や外泊をする場合は、水痘発症者との接触は必ず避けるようお願いいたします。